

2025 年度プロジェクト評価に伴う意見書

2026 年 6 月 12 日
国立天文台プロジェクト評価委員会

国立天文台長 殿

将来、国立天文台が我国のマルチメッセンジャー天文学研究の中核となる機関となるためには、天文データセンターは、多波長・多粒子・重力波などの観測データを同時に扱い、瞬時に取り出して提供する部署として発展することが望まれる。そのためには、主に光赤外のデータばかりに特化することなく、将来的に幅広い波長・粒子・重力波などの観測データを扱うことを見据えて、今から準備を始めることが良策だと考えられる。具体的には将来的に執行部と協力して人員や予算を集約し、拡張・拡充を目指していくことが望まれる。また、天文データセンターのメンバーもその心構えが必要であろうと考えられ、広くコミュニティから意見を集め、国立天文台内外からの協力を得ることが推奨される。

今後のプロジェクト評価（国際外部評価）では、評価当日の質疑応答はプロジェクト室等の現役メンバーが主体的に対応することが望ましい。すでに退職されている関係者については、主として事実関係の整理や経緯の確認への協力を依頼することとし、将来の方針等に関するご発言は控えめにさせていただくことが適当と考えられる。また、外部評価委員会は、自由討論、経緯確認、クリティカルな議論等、目的に応じたセッションを事前に設定し、それぞれの参加者の範囲をあらかじめ明確化しておくことが望ましい。

天文データセンター評価報告書の一部指摘事項（P20 2-2-2: 4. Response to Advisory Committees and Formal Recommendations）に関して、旧天文データ専門委員会・科学戦略委員会等からの答申・提言の事後処理や台内各部署へのチャージ、課題設定のための対話等の手続きが全台的に不完全であったことが認識されている必要がある。背景理解に誤解を生じることがないように、各委員会・執行部・各部署の関係など全台的な状況を整理し、国立天文台として対応いただくのが望ましい。

以上